再スタート～未来へ続く道～

代田中・3　小島　帆乃夏

空港の管制塔から飛行機を見送り、そして迎える。そんな日を夢に見ながら、私は今、受験勉強に励んでいる。私は今まではっきりとしたやりたいことが見つからず、自分の将来に、もやがかかっているようだった。しかし、この夏に航空管制官という仕事に出合った。私にとってそれは大きな分岐点となった。

私は空を見上げることも、広い世界と大きな可能性をもつ飛行機という存在もとても好きだ。きっかけは六年生のとき、両親に中部国際空港に連れていってもらったことだ。それ以前にも空港に行ったことは何度もあったが、物心ついてからはそのときが初めてだった。私は、世界中の人々が集まり、多くの夢や希望を詰め込んだような空港の雰囲気にすぐに魅了された。そこにいたキャビンアテンダントやグランドスタッフの方々は、とてもきらきらして見えた。私はその日から空港でグランドスタッフとして働くことを目標にした。しかし、中学二年生の頃、この目標に対して疑問をもち始めた。私は本当にこのままグランドスタッフを目ざしてよいのか、お客様一人一人に寄り添うような仕事が私に合っているのか。私は少しずつ自分の将来の夢に自信をもてなくなってしまった。

その頃から、はっきりとした夢をもてなくなり、私は不安の渦の中にいた。三年生になると受験生という肩書きの重圧がのしかかり、さらにナーバスになってしまった。一、二年生のとき、周りから、三年生になると将来に対する不安などで気持ちが不安定になりやすい、という話はよく聞いていた。しかし、私は心の片隅で、何とかなるし、大丈夫だろう、と甘く見ていた。テストの順位もキープできていたし、成績もこの状態を維持すれば志望校に合格できるだろうと言われていたからだ。

三年生の六月の実力テスト。受験生になって最初の大きなテストだった。しかし、私は気持ちが不安定だったため、思うように勉強ができなかった。結果は満足のいくものではなかった。総合順位や合計点に限らず、各教科の結果もほとんど振るわなかった。自分が一年生のときから積み重ねてきたことが無駄になってしまったと感じ、もうだめかもしれないとも思った。そんな晴れない気持ちを引きずったまま受けた期末テスト。今までいちばん低い点数を記録してしまった。周りの友達と比較して自分を追い込んでいたようにも思う。頭の中が整理できず、焦りばかりが募っていった。支えてくれる家族や、話しかけてくれる友達にも優しく接することができなかった。私は一、二年生の頃、学ぶことが好きだったし、知らないことを知ることはとても楽しかった。勉強はすればするほど必ず結果がついてくる。それがうれしくて頑張ろうと思えた。学びによって今日の自分が昨日の自分より少しでも成長していると思うと誇らしくもなった。けれど、三年生になってからは、将来に何をすべきかも分からず、勉強する意味を失いかけていた。何のために勉強するのか、今頑張っていることが本当に報われるのか。そんなことばかり考えてしまい、勉強に集中できなかった。実力テストと期末テストは私にとって大きな挫折であり、ターニングポイントでもあった。母からは、

「弱さを知るのは大切なことだよ。本当に弱いのは失敗をしたことがないこと。」

と言葉をかけられた。

「弱さを認めてだめな自分を受け入れられたときに、初めて変われるんだよ。」

とも言われた。変わるチャンスは今だと考え、もう一度再スタートをきろうとした。しかし、思った以上に闇が深く、簡単にはエンジンがかからなかった。ただただ毎日が過ぎていき、とりあえず勉強

しているという日々だった。

　そんなときに出合った航空管制官という仕事。この仕事は空に関わる仕事に憧れるようになった頃から存在は知っていた。「空を守る仕事」というものにグランドスタッフとは違う魅力を感じていた。しかし、「難易度が高く狭き門だ」という話をよく耳にしていたため初めから選択肢から外してしまっていた。けれど、この夏、航空管制官という仕事を詳しく知れば知るほど挑戦してみたいという思いが加速していく感覚があった。最大の魅力は、一度に多くの人の夢を叶えられるということ。グランドスタッフの場合、お客様一人一人の夢を叶え、おもてなしをする。一方、航空管制官は、その一人一人を乗せた飛行機ごと見送り、迎えることになる。飛行機を安全に飛ばすという管制官の仕事、それはその飛行機に乗っている人全員の夢や可能性をサポートすることになると思った。私もそれを支えるチームの一員になりたい。もう一つの魅力は、私の大好きな英語の力を十分に発揮することができる仕事であるということ。グローバル化が進む今、国境を越えて人とつながることの魅力と可能性を肌で感じる。空港は多くの国の人たちが一度に集まる場所。そのつながりを支える最前線に立って仕事がしたい。

　私がこの夏に学んだこと。一つ目は、どんな失敗や挫折があっても努力することを諦めず続けること。二つ目は、自分を支えてくれる人を大切にすること。心がくじけることがあったときには逃げてもいいし、一回投げ出して離れてしまってもいい。大切なのは、もう一度立ち上がることだ。そして一人で立ち上がろうしなくてもいい。人は必ず誰かに支えてもらっている。そのことを忘れてはいけない。その人たちを頼る、そして感謝する。私の隣にはいつも母がいて支えてくれる。母の指摘する内容はいつも的確すぎて涙することもあるけれど、見捨てることなく、近くにいてくれることに感謝している。辛いときの悩みも、うれしいときの感動も、私を支えてくれる人たちと共有していきたい。

　管制官までの道のりを進むなかで、さまざまな壁や難題にぶつかることが何度もあるだろう。けれど、私は何度転んでも転んだ数だけ立ち上がる。そんな自分でいたい。今、私の机の上には受験勉強に使う参考書たち、その隣には、航空管制官を目ざすための一冊の本。同じ棚に現在と未来が一緒に並んでいる。いつか皆の希望を乗せた飛行機を管制する日を思い描き、今すべきこと、できることを積み重ね、一歩一歩進んでいきたい。私はまだスタートラインに立ったばかりだ。

４・９